

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



編輯 須野上野 須野上野 須野上野
發行 須野上野 須野上野 須野上野
印刷 須野上野 須野上野 須野上野
社務 須野上野 須野上野 須野上野

第六回代議員會 に於ける針塚名 譽會長の挨拶

第六回代議員會を開會するに當り代議員諸氏には夫々御重要な地位に居られ御多忙の折にもかゝはらず萬障御繰合せ下されまして今日本會を此處に開會する事が出来たのは皆様の御厚意に依るものと感謝に耐えない次第であります。

此頃は總ての方面に於て社會的に又團体的に行動しなければ何事も出来なない様になりました。例へば國家にしても以前は獨立の國家が充分の權能を發揮し得たのであります。今日には國際國家となり如何にしても獨立國家にては何事も出来ぬ様になりました。況やそれ以下の小結合又は小個人に於ては猶更獨立では何事も出来ないわけでありませう。大なる組織團結により社會的に有効なる仕事が出来得るのであります。

斯様に考へると我が同窓會は率先して本部支部を設け支部長が支部の意見を集め代議員を派遣し同窓會の爲に計劃するのは誠によい事でありませう。此の點は他校にても又學んで居ります。

我等同窓諸君に於ては斯様な組織を作つたのは先見の明があつたのであります。尙ほ皆様の力で愈々親密な結合の下に打つて一丸となり一致協力を仰ぎたいものであります。母校も皆様と陰に陽に相互援助支持により今後無限に輩出する後進にも光明の度を増して來たと考へます。此も皆様の熱誠な御援助として我々學校に奉職する者は有難く思つて居ります。

此頃は獨り母校の爲又は母校の後進の爲のみならず皆様自身の爲にも結構のこと、祝福する次第であります。

此頃は關西地方を視察してまゐりましたが何れも良く全員結合して名利を超越して努力して居らるるのを見て涙の出る程嬉しく感じたのであります。例へば或一會社が危態に瀕したのであります。其を多く卒業生の努力によつて挽回し得た事に依つても斯の如き事が考へられたのであります。

此頃は獨り余の視察した地方のみならず全國に於て斯様に行動しつゝあるのであります。今後は尙諸君の先導としての指導又は努力により此の傾向を益々進めて貰ひたいのであります。誠意の無い巧技的方法策動

山本三郎著
化學純絹絲の工業的完成
Y0.30

伊太利製絹業の現況退原因と其修正
Y1.50

菅原勇治著
蠶絲業法規要論
Y2.30

市田上野縣野長
會究研學科絲蠶 所行發
(振替長野0413番)

抽象的論議 (第一稿)

蕉

1 緒言(即、言ひ譯)
筆者は千曲河畔に育ち、最も平凡なコースを辿つて現に千曲會員の末席を汚す以上一ヶの技術者だ。それに幸ひにして、従つて同様のウエイトに於いて不幸にして「お嬢の先に味喰ひなんかヒツカケてエヘン!」なんて云ふお偉い方の側でなく、白衣に包まれてレンズの向ふ側の狭い世界を強いて擴げて看ようつて云ふヒネクレ根性を土台にして生きて行く方のなんだから、喋つたり、話したり、書いたりする事は一番下手な人種に屬する。

2 滿洲蠶業論並に米作論

これは筆者の味喰だ。然し、この味喰が美味いか不味いかは讀者、自ら味はつてミロだ!
事變以來、滿蒙移民問題つて奴を猫も杓子も喋べる。そして矢駄羅に浮かれたり、逆上したり、飛び出したりして居る。そして一番の閉塞者は既に悲觀論にまでゴール、インして居る。
「何が彼れをしてこうさせたか?」
曰く「ニンシキ、フソク。」
某縣からの滿蒙視察員代表が滿鐵の農務課のサル専門家にサンザ移民問題に對する御高話を拜聴した上で「移民の能否に對する結論を承り度い」と天晴れ切り込んだと思へ! 然るに農務課の某氏の返答に曰く

「成る程、その御質問をなされる御氣持の程は充分御察しがつく。但し但しですぞ! 昨年の九月十八日の事變發生以前に日本人、八千万のうち、誰が滿蒙移民論を御説きになりましたか? 御言葉の御様子では吾々のこの問題に對する結論、乃至は既往の調査不充分と云ふ點を御咎めになられるやうでもありますが、この移民問題と云ふ問題自体が具体的に吾々に提示されてから僅かに半年なんですから何卒その邊は悪しからず……」つてんだ。

認識不足の故に、無け無しの田畑を賣拂つて渡滿するのは勝手だ。西も東も分らずに飛び出したがために虎の子を費ひつくして奉天、新京あたり野垂れるのは勝手だ!
だが、そのために食ふや食はずで國際都市を這ひ廻られちや第一、日本人の面汚しだし、乞食をされちや迷惑だ! と云つて本人にとつて見れば渡滿前の夢が夢だけに消ゆる夢の果無さは別だらう。
認識を是正しろ! 問題は其處からだ!
周章てるな! 日本は明日滅びるんぢやない!
例へば移民問題と水田經營、蠶業事業に就て所謂大家の言説に聞け!
「移民は結構でもあり、今日の本農村の現状よりして是非共大量に即時に行ふか良いと思ひます……」
「然し乍ら……諸君、然し乍らだ……滿蒙の地に於ては日本内地の農業者を壓迫、脅威せざるために例へば水田經營、蠶業の移植等はモツテの外であります。」つてんだ。
誰が斯んな事を云ふかつてののか? これは誰でも無えんだ! 其の道の

大家て大學の先生で、この方面に...

然るに滿洲に居る一技術者はイト...

「滿洲では高粱の反當收益四四餘...

「...」と。(蠶絲界報四八四、四八...

で、斯ふ思ふ。

移民諸君に對して「米は培るな!

桑は植えるな! 苹果も御免だ!

意志を強固に持して、生活レベル...

「日滿統制經濟政策」と云ふ奴。この政...

第一に米の問題、詳しくは滿鐵農...

而して將來の水田としての可能...

田面積に併せては六十三萬町歩、耕...

これは對して、日本現在の水田反...

水田面積 産額(玄米、万石)

内地 三二二万町歩 六〇八一

朝鮮 一六二同 一五九一

台灣 六六〇同 七〇七

日本内地六〇〇万石に對する滿...

次に養蠶の問題。これを前の論法...

千曲會の會員諸氏に日本の繭産額...

次に繭産額の如きは一朝一夕にし...

恐らくこれが日本の蠶絲業の壓迫と...

然もこの全鮮五十八万石の産繭額...

省みれば滿蒙蠶業脅威論が彼の山...

如何に多きを思へ!

然し乍ら吾々は斯の如く觀、斯の...

滿蒙、天地廣漠たりと云へども蠶...

この滿洲の地で假に素晴らしい勢...

曲會の先輩諸氏は大概お孫サンを抱...

みして貰つて居つても五%足らず...

その愚かな子供は脊丈だけは一人...

だから皆サン。特に有識者よ。

と、此處で第一講を終る。

チャルメラ

確氷 茂

まるまる一年ほど東京を一步も出...

農村の今日このごろはいろいろに...

それが知りたいのだ。

最近肥料が暴騰してゐる。百姓に...

對しては迷惑極まる話だ。中には自...

論自給肥料を使用するといふこと...

對する戰術であるならば問題は又違...

これから聯盟で滿洲問題が取り扱...

兎に角我が國の前途は多事といふ...

統制々々といふが、いつたい統制...

生絲の販賣統制といふことがやか...

項	目	金額	摘要	
			金額	摘要
一、	雜入高基	5,600.00	基本金繰入高	5,600.00
二、	事務所	4,000.00	專任給	4,000.00
三、	會議費	2,000.00	代議員會費	2,000.00
四、	事業費	1,000.00	雜報費	1,000.00
五、	補助費	1,000.00	補助費	1,000.00
六、	交付金	1,000.00	補助費	1,000.00
七、	豫備費	1,000.00	補助費	1,000.00
合計		17,600.00		

項	目	金額	摘要
一、	臨時會費	1,500.00	臨時會費
二、	右對本會	4,000.00	右對本會
三、	通會計	2,700.00	通會計
合計		8,200.00	

項	目	金額	摘要
一、	決算高	10,000.00	決算高
二、	豫算高	10,000.00	豫算高
三、	比較増減	0.00	比較増減
合計		20,000.00	

昭和六年度同窓會特別會計 (學術雜誌編輯費)

昭和七年十一月

上田鐵線專門學校千曲會 (理事長) 理事 松村 季美

理事 浦生 俊興

理事 林 貞三

理事 倉澤 美徳

理事 齋藤 菊雄

理事 高木 三治

理事 森山 二郎

右之通り相違無之候也

昭和七年十一月

上田鐵線專門學校千曲會 常任監事 川部 卓爾

監事 野崎 清

同 塚田 眞磨

續々「異端の目」

蕉

蕉

滿蒙とて、とて

題名が類似すればとて、何の、不肖の身を以つて明治の文豪の壘を何ふ斯ふと云ふ野心は毛頭無い。たゞ讀者諸氏は斯の拙文を通じて單純に筆者の赤毛布とセンチメンタリズムとに幾分の同情と、罷むなくんば少許の微苦笑でも良い、それを惜しまざれば筆者としては無上の光榮として……多々益々書きながらざるを得ない譯だが「安心を乞ふ！」。そろ、そろ筆硯を擔いで退却準備はして居る。

南滿の詩境

胡塵吹き捲り、烈日灼くるが如き南滿の地にも、時として、處により廣重拙くところの風景畫にも増した情趣豊かな繪巻を展開する。筆者はこれを安奉線、太子河の流域に看た。文縁篤く、歌謠に巧なるの人々は「ボルガの舟歌」に盛られた詩境に憶れるだらうと憶ふ。看よ！

東滿の山地遠く流れ出でた太子河の溜流は漸くにして地は平かに懸崖漸く去つて流勢は頗る衰へる。眞夏の烈日の下、あるかなきかの微風を受くる舟路の便は眞帆、片帆にあらぬアンペラ造りの丸き帆もする、原始の姿！

翠簪の岸に近く憩ひする舟人の全裸の肌は色も黒々と、烈日に映えて

眞實、自然の子、太陽の子、輝ける淡の姿である。

己が育ての流れの行末を見んとてか遠く、近く姿を變へ貌を變へての山々のたゞすまいも母の大地の心に似せてか、あるものは肩の流れに、あるものは乳房の膨みにまたあるものは仰べし腕のそれにもまして、なだらかなる線の起伏を慈愛深く横へる繪の如き眺めの、この旅を終へて早や二年の月日を送れど今猶眼前に蘇るのである。

遼河の上流

海し越へ行かば外國ありて地の廣げれる事、萬里、河の流れの岸見えすして數千噸の黒船のよく溯るに耐ゆ。」と、サル日、ものゝ本にて訓へられしことあれども、かなしや、この漢山國に生れ他國を見ず川とし云へば田圃を流るゝせゝらぎを思ひ夏の日盛りに浴せし春丈許りなるは大川と稱せし程なればかゝる訓へも心にかげざりし處、ある時、資源館にて物見する館にてその丈一丈にも餘る鯉魚を見て肝を潰し、あまつさえ、この魚遼河に棲むなりとの説明に漸く大河の恐ろしきを身に沁みて覺へしとぞ。

この程の遼河も遠く蒙古地に入り白音太來(通遼)近くまで行くと砂漠の底を割つて行くために水勢も強く水高も可成り多いとは云へ、川幅は僅かに數十間となつて此處は渡船で渡る。

たゞ此處の渡船の面白いのは船椽と言ふがなく一様に五間四方位なる大なる箱をなして居る事、旅人は此處に到ると馬を馬車から放ち別々にこの渡船に載せ對岸に到つてまた馬

車を仕立て、行くと言ふ仕組み、句あり。

北滿の惠路

蕉

題名によりてこの旅を吾れ等のエロ行脚と見るは當らず。吾れはいみじくも職掌柄北滿の桑樹の調査を目的とし、東道の役、御苦勞にも仕込みの日本刀を携へての護衛の役、五氏は陸軍歩兵豫備の少尉とあれば題名に反する處遠く。更にいま一人は握飯を後生大事と抱ふる程の若者であつて見れば餘程の戸迷ひしたエロ神とて御利益を授くるには骨が折れ様……と思つたのだけれど流石は名にし負ふハルピン！

松花江を渡つて江岸の蘆荻を分け揚柳の茂みを漕るごとに紅き、青き水着の姿なまめかしく草のいきれ、人のいきれに吾れながらムツとする事しばし。

夏を、人生を享樂する事のロイヤ人に及ぶ者なしとの評を如實に見し、江岸に天幕を張りジャズバンドの拍へし休み茶屋の男、女、の水着のみ華に然し其處で呑むだビールは冷くアイス、クリームの甘かりし事よ。余の文筆のよく盡す處に非ず。

滿洲事變を胎むだ家

省城、チ、ハルと車站、チ、ハルとの區別を知らず、剩へ、言葉の通ぜぬかなしは用のない車站チ、ハル(東支線、チ、ハル驛の處で例の馬占山先生の居りし省城チ、ハルとは約二十哩の距離あり)に下車、露西亞人の操る自働車で右往、左往した揚句の果、拾はれたのが例の記憶

の良い人は知らう昂榮館と云ふ旅舎、昂榮館主、當時の井杉曹長は中背の稍々肥滿したスコットの元氣のいゝ親切な親父さんであつた。

旅館とは云ひ條、お主婦さんが筆者に云つた「貴方は百五十幾日目かのお客さんです。」と云つた言葉でも知れる一室に軍隊等使ふ幅の狭い鐵製寝臺が確か四つ、食堂が別にあつて、裏庭からは隣の露西亞人のお主歸さん達の内職に飼ふ牛がよく見えた。この齊克線(チ、ハル、克山間の鐵道)の開通以來、筆者が百五十幾日目のお客である程、客足の絶へた旅館の經營を斷念する事なく繼續した當時の井杉氏の言葉。

「經營は苦しくつてもワザ／＼此處まで視察、調査に來られる母國の人々の拾石になる心意で……。」斯かる信念からの發露であらう。毎夜夜半にこの驛を通過するハルピン行、歐露行の邦人旅客のためにさえ切符の世話その他万般の面倒を見て呉れて居つた。一ヶ年十人の宿泊者のあるやなしやの旅宿に立籠つて一步も退かぬ彼氏の姿、支那語、蒙古語、ロシア語に巧なるの故を以つて中村大尉東道の役を勤め遂に滿洲事變の導火線となつた彼、井杉氏の胸を振つて呉れた料理の味は必ずしも甘くはなかつたけれど旅館經營の君の眞心には打たれたものだつた。

今や護國の鬼となりし君遊いて一ヶ年、君の旅宿に一夜の宿をかりて丁度二ヶ年、感慨亦無量である。夏草の、君が、墳墓、覆えるか。

南滿の馬賊ナンセンス

同じ馬賊と云ふ言葉でも處變れば

品變つて日本内地で考ふる馬賊は數十人、數百人の騎馬の賊團なのであるけれども、此處、南滿洲の現地では一人、二人の押込の強盗でも矢張り、馬賊と云ふ。これが新聞紙面では一様に交錯して了つて滿洲の話となると一から十まで馬賊々々で滿洲に居る人間は筆者如き善良な君子まで内地に歸ると馬賊扱ひにされかねぬと云ふ譯。

諸君！ そう云ふのが眞實の認識不足と云ふものですぞ。さるにても關西にてさる有名なる私立の研究所の名ある學者と思召せ！

遠く歐羅巴まで御出張さるゝと云ふ御仁が南滿の平和郷、筆者等が窓を開け放ち素裸で寝ても勝さへ盗まれぬと云ふ、それ位有名な熊岳城の温泉ホテルに泊つておきながらあらう事か一晚中窓の鍵を探ぐつて歩き、女中に隠して財布の紐を締めるなど醜態を盡してサテ云ふ事「馬賊は大丈夫ですかね？」

これはナンセンスでもナンでもない。たゞ滿洲に住む吾々から見れば教會堂の中でスリを心配する以上のナンセンスなのだ。

滿洲の田舎の旅

清水のない田舎の旅は一番勝手が悪い。其處で考へ出したのか少々悪くても仕方ない。兎も狗も見付けた水は飲むことにして呑むだ後から征露丸を丁藏して置く。

田舎の百姓は矢張り純朴なものだ。先づ粟飯を焚いて雑を料理して歡待して呉れる。砂糖湯をつくつて呉れる。卵を茹でて喰はせる。椀底に砂の殘る事は前に書いた。

一家の中に子供だけ二、三〇人、

年頃の娘だけ十幾人と居る様な家を見る事もある。これは大家族制の故だ。

便所は決して無い。だから晝間の用便は少々困る。

千山、無量觀(日本の社に相當すべし)の道士は肉類を喰はぬ。だから吾々にも持參のキヤラメルを喰はせない。勿論、野菜以外の罐詰は喰はせぬ。この無量觀に前方の秀峰に面して道士の便所がある。木札を懸けて曰く、「仙人便所。」

筆者の處の科長、矢張り同窓の先輩湯川氏が一週間の田舎の旅をして歸るとすぐに支關で裸休になつた。奥様の數ふる處によると虱の數三十二匹。

吉林の奥に住む樵夫の一年中の常食は大豆の鹽茹でにしたものと少々葱位だと云ふ。それに一年を通じて豚が一、二頭食膳を賑はすと云ふ。

筆者、公主嶺の田舎、遼河の沿岸まで往復約八里の路を桑樹を尋ねて行つた事がある。往復十時餘の間筆者の眼に映つたものは數戸の農家は別として高粱、大豆、粟の畑、揚柳の木立、高粱、高粱、大豆、大豆大豆で目透しは利かず、目標はなしさればと云つて案内の支那人は言葉通ぜず生來これ程の單調な旅をした事なく街に近付いて遠く野末の帷を走る電柱の一並びを見付けた時の嬉しさを忘るゝ事が出来ない。

蓋し現實の旅は此處に追憶するの如くに愉快なもの許りではない。(完) 擲筆に際して、無益の雑文によつて貴重な誌面を長々と埋めた事に對して深甚の謝意を表す。この責は他日

有用の文字を綴つて代價を果す事にしたい。幸に諒せられよ。

小澤君の死を惜しむ

菅原生

養蠶科第十三回卒業の小澤君君

つ君は歸郷の都度よく私の私宅を訪ねられた、遅うなつては泊られたことも數次ある、寡言にして實直、しかも内に燃えるやうな研究心を發し、堅忍不拔の氣概は現時の青年に稀れに見るものと私は衷心から敬愛してゐた、然り君は山梨の蠶業學校を出て、上田蠶專に入り、更に九州大學に學んで所謂傍系的に自己を

その良縁を贅美しつゝあつたのである、しかるに新婚一年半、一子を擧げて間もなく、愛らしき兒と若くして麗はしき御令閨とを殘したまふ君は永遠に眠つてしまはれた、何んたる人生の悲惨事であらう、逝ける君が小事、逝かれたる遺族の胸中を憶ふて私は泣きに泣かされた、餘りにも慘酷な運命ではあるまいか! 返

入 學 案 内

上田蠶絲専門學校

●募集人員

養蠶科・製絲科・絹絲紡績科・通計約百名

●出願期日

試験檢定 三月十五日迄
無試験檢定 二月二十日迄

入學案内書入用者へ申込
(郵券貳錢添附)次第送附

●試験科目

數學(代數・平面幾何) 英語(英文和譯)

●試験期日

三月二十三日(午前學科・午後體格檢査 口頭試問)

●試験場所

上田―本校・東京―東京文理科大學・名古屋―愛知縣廳
岡山―醫科大學・福岡―九州帝大農學部

市長野縣上田市

と私も信じ君をも慰めた、君が上伊那の支所へ轉じた時

「適材には適所がある筈だが!」
アノ地勢の悪い山谷を自轉車で風に吹かれ雨に打たれて走り廻ることとは餘り頑丈でない君の健康を害しはせぬか」と氣遣つても見た、そうして私は逢ふ都度君に種々注意もし、同時に君の最初から希望であつた蠶業試験場方面にと同輩や知己と及ばずながら努力して來た、そうして時機の問題にまで達してゐたのにその實現も見ずして君は不歸の客となられてしまつた、運命とは言ひ血の慘むやうな努力をして世に出た君に報いられたものは單に死であつたのだ、誰か天を恨まずに居られよう! 噫々。

(一九三三・一一・二二稿)

弔慰金募集廣告

本會々員小澤勇氏(蠶十三)豫而御病氣の處養生不相叶十一月十五日遂に御逝去被致候間此段本紙上を以て及御通知候也

追而有志者弔慰金は來る一月末日迄に取纏め遺族へ贈呈可致候間便宜上振替口座東京第四三三四一號へ小澤勇氏弔慰金の旨御明記の上御拂込被下度候

昭和七年十二月十五日

上田蠶絲専門學校千曲會

通信

拜啓霜月の候寒さ日に加はり候折

焉として逝かれた、一度この世に生を享けたるもの何時かは誰かが運ぶべき運命ではあるが、社界の第一歩に踏み出した許りの春秋に當む前途有爲な君を今茲に失つたことは母校、同窓、蠶界の爲めに泣き切れぬ損失である、私が小澤君の人となりを眞に知つたのは甲府時代である、上諏訪の支所に奉職し、故郷を山梨に持

完成した典型的努力家である、今後大に蠶界の爲めに爲すあらんと自らも期待し、吾等も期待し、父母兄弟皆期待して居たのであつた、しかるに今は無き君である、更に君が令閨政子氏とは前生そも何等の約束にや、縁を結ぶにも私は非常に深い關係と責任を持つてゐた、家庭は琴祕洵にまどらかに私等同窓は何れも

らぬ追憶! そうだ返らぬ追憶ではあるが……
君が上諏訪の支所に赴任した時「瘦せても枯れても専門出の農學士だ、片田舎の一支所の技手とは何んたることだらうこれも上田出のせいかなあとひがんでも見た、しかし大成には下から叩きあげるに限る」

から先生には愈々御清祥にて御健闘の段奉大賀候。
さて先般先生御來岐の際は御無禮仕り御許し被下度候早速書面差上ぐべき處用事に追はれ御無沙汰仕り候去る十九日岐阜縣に於ける同窓會を開催仕り候處十四名の出席にて大いに上田時代の意氣に燃へ實に愉快に一夜を過し申し候最後に先生の温顔に接した氣分にて校長先生の萬歳を三唱して閉會仕り候上原さん及先輩の言に依り出席諸氏の氏名を御送り申候間御一笑被下度候。
末筆ながら先生の御健康を祈上奉り候。 敬具
昭和七年十一月廿三日
針塚先生 侍史 松井憲二

東京高蠶に處女遠征を行った。此の遠征は余りに大膽の様に思はれたが然し猛練習に猛練習を重ねた吾々には或る程度の自信はあつた、それにこれ迄上田中學と二回、小縣蠶業と一回試合を行ひ何れも堂々と勝つてゐる。然し勝つて兜の緒を締めよと益々自重し十日間の合宿練習を行った。此の眞剣な練習振りを知つてゐるのは内田部長一人である。
愈々當日内田部長を先頭に西ヶ原の道場へとのりこんだ、道場は流石に立派なものであつた。抽籤の結果我部の先攻で試合は開始された、抜きつ抜かれつ二時間半の息詰まる様な大接戦の結果遂に我軍は三點リードしてこゝに目出度優勝する事が出来た。
左に當日の試合成績を示す。



東蠶對本校 弓道試合

九月廿五日我部は斯道の覇校である

上田蠶専成績 (百射四十八中)
計10987654321 氏名
10×××○○○×××松浦彰義(絲二)

東京高蠶成績 (百射四十五中)

計10987654321 氏名

9	000000000000	比田井政治 (蠶一)
8	000000000000	岩本賢次 (絲二)
12	000000000000	坂口育三 (蠶一)
9	000000000000	佐藤一郎 (初二)
6	535364745	小計
48	423734292620169	果計
(註)	當日吾軍の鋭鋒長谷川恒藏君(絲二) 風邪のため出場不可能依つて記録係りを依頼す。	
9	000000000000	谷川(二段)
5	000000000000	金内
9	000000000000	重田
12	000000000000	丹羽
10	000000000000	今村(初段)
2	255646555	小計
45	4341363125211510	果計

住所移動

朝長勝治 蠶二 東京市杉並區高圓寺町五五〇
唐澤正平 蠶二 鐘淵紡績株式會社神戸支店蠶業課(神戸市)

小澤周一郎 蠶十 三協社(東京市下谷區仲御徒町三ノ七五)
金澤丈也 選蠶十二 青森縣五戸町金子幸一 選蠶十三 片倉製絲紡績株式會社鴨島製絲所原料課(德島縣鴨島町)
河野芳春 蠶十八 那是製絲株式會社白杵工場(大分縣白杵町)(訂)
稻石榮太郎 絲一 三重製絲株式會社(三重縣三重郡三重村)
清宮 保 絲一 東京硫酸株式會社(東京市城東區大島町七丁目)(訂)
遠藤文平 絲一 德島縣名西郡石井町清水二郎 絲一 横濱市中區大岡町一、九六八
矢田部忠吉 絲二 横濱市神奈川區平沼町中山旅館
西川梅次郎 絲七 石川縣廳農務課(金澤市)
馬場政友 絲十 大日本生絲販賣組合聯合會神戸事務所(神戸市神戸區明石町明海ビル)
田口榮治 絲十二 片倉製絲紡績株式會社記南製絲所(和歌山縣日高郡湯川村小松原)
福島鋼次郎 絲十二 西條蘭檢定所(愛媛縣西條町)
和田虎三 選蠶十二 那是製絲株式會社山崎工場(兵庫 山崎町)
八田直次郎 絲十三 福岡縣蠶絲課(福岡市)
塩入國治 絲十三 共心組製絲所(宮崎市幸田町一〇〇)
北村孝次郎 絲十四 蠶業試驗場蘭檢定所(兵庫縣日高町)
上田岩男 絲十四 白浦信用組合製絲部(愛媛縣東宇和郡玉津村白浦)
伊藤敏之 絲十五 那是製絲株式會社宮崎工場(宮崎市權現町)
細田親二 絲十五 鹿兒島縣蠶絲課(鹿兒島市)
馬場長市 絲十六 Gunze Raw Silk Manufactured Co. Ltd. 40E. 34st.

New York, U.S.A.

永山 平 絲十六 鹿兒島縣出水郡三笠村一、一五〇
小山祖光 絲十六 確米社事務所(群馬縣原市町)
内田幸成 選蠶十六 本校製絲科高馬一郎 絲十七 那是製絲株式會社(益田工場(島根縣益田町))
中曾根靜三 絲十八 神奈川縣廳農務課(横濱市大日本通)
平山俊雄 絲十九 肥後製絲株式會社(熊本縣玉名郡彌富村)
瀧澤芳樹 絲十九 農林省蠶絲局蘭絲課(東京市麴町區大手町)
宮原秀人 絲十九 長野縣小縣郡中鹽田村
橋詰英雄 紡四 神奈川縣廳農務課(横濱市)

喪中に付き年賀缺禮仕候

佐藤春太郎

喪中に付き年賀缺禮仕候の禮を缺き申候

古谷 榮藏

喪中に付き年賀缺禮仕候

荻田恭一

喪中に付き年賀缺禮仕候の禮を缺き申候

小林 茂雄